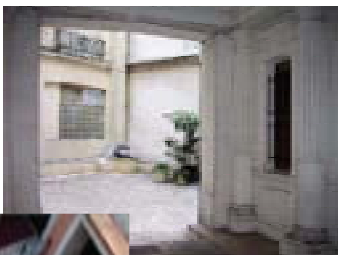


### ■パティオ（中庭）

建物が密集する街のなかで、開放的かつ安心できる場所としてパティオを設けています。ここが「まち」と住まいとを結ぶコミュニケーションスペース、あるいは「まち」と住まいの間のクッションの役割を果たします。通りから見えるこの空間は第二のパブリックスペースです。エントランスのアイアンの扉を開け放せば、仲間や近所の人たちが集うことのできる憩いの空間に変身します。

晴れの日には抜けるような青空を、雨の日にはしっかりと濡れた表情で迎えてくれるでしょう。外から帰ってきたときにもホッと安らぐ空間であるに違いありません。

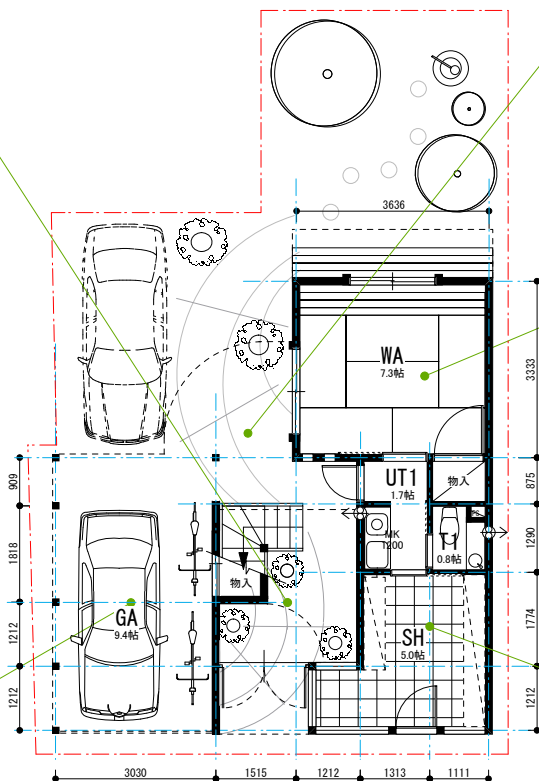
パティオはまた、上下の空間をつなぐ役割も持っています。一般的には連絡通路でしかない階段室も、このようなパティオの一部となることでその価値を高めることになります。



### ■ガレージ

通常は乗用車1台分のスペースが確保されていますが、来客時など、奥の庭も利用することで2台の駐車が可能となるフレキシブルな構成です。

「まち」で暮らすための必需品である自転車を置くスペースも設けました。



### 1F平面図

床面積：25.8㎡+車庫15.6㎡（7.8坪+4.7坪）

N  
SC= 1:100

### ■通り庭 (Promenade Architecturale)

エントランスからパティオを通過して裏庭に至る通路は、町屋における通り庭を連想させます。

また、この通り庭は、川の流れるように緩やかに蛇行し、あるときは空を見、あるときはくぐり抜けるといった、変化に富んだ建築の散歩道でもあります。自分の家を眺める場所がいくつも存在することは、住まいを実感できる重要なポイントです。増築の必要が生じた場合には、通り庭と裏庭は、増築のためのスペースとして利用することもできます。

### ■和室

家の奥に置かれた落ち着いたある和室からは、裏庭を望むことができ、例えば5月ならハナミズキの白く咲き誇る姿など、季節感を身近に味わうことができます。縁側の存在は、和室と外の自然とを有機的に結びつけてくれます。

また、ユーティリティスペースにも隣接しており、生活面の利便性にも配慮しました。

訪れる人のくつろぎのスペースや、ショップの一部として利用することも可能です。

### ■ショップ（表現の場）

趣味のものは自分だけで終わらせず、人にもアピールすることでさらに充実することでしょう。ショップスペースはそのための場を提供します。また、住人の嗜好が道行く人にも分かるということは、互いの理解を深める第一歩です。ユーティリティスペースを奥に控え、使い勝手も十分です。

